

修士論文（要旨）

2013年1月

高校英語教科書「英語 I」第1課の研究

—Slower Learners の指導のために—

指導 森住 衛 教授

言語教育研究科

英語教育専攻

211J3053

沼田隆喜

目次

序章

1. 研究の背景	1
2. 本論文の目的	1
3. 研究の方法	1

第1章 言語材料

第1節 語彙	3
(1) バランスの崩れている単語の質	3
(2) 少ない単語数	4
第2節 文法	6
(1) 片寄りのある文法項目	6
(2) 違和感のある文法項目	7
第3節 文型	10
(1) 5文型の扱い方の危うさ	10
(2) 誤解を生む例文の質と量	13

第2章 言語活動

第1節 読むこと	17
(1) 活用されにくい設問	17
(2) 目的の見えにくい練習問題	19
第2節 書くこと	20
(1) 形式的な練習問題	20
(2) 疑問のある練習問題の分量と内容	22

第3章 題材内容

第1節 題材	24
(1) 制限を受ける題材	24
(2) 内容に不揃いの見える題材	25
第2節 テーマ	26
(1) 動機付けになりにくいテーマ	26
(2) スタートに必要なテーマ	27

終章

1. 本研究の結論	29
2. 本論文の応用性	30
3. 今後の課題	30

注	32
---	----

資料	1
----	---

参考文献	1
------	---

謝辞

要 旨

本研究は、高等学校英語教科書「英語Ⅰ」第1課を Slower Learners の指導という視点に立って分析・考察したものである。教科書は、教材の中でも最も重要なものである。教科書こそ絶好の道標（森住 2011）なのである。高校の英語教科書は現在(2012 年度)、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「オーラルコミュニケーションⅠ」、「オーラルコミュニケーションⅡ」、「リーディング」、「ライティング」の6種類である。このうち、選択必修の科目に指定されているのは、「英語Ⅰ」と「オーラルコミュニケーションⅠ」であるが、本研究では「英語Ⅰ」を取り上げた。この科目が最も多くの生徒に使われているからである。また、第1課を取り上げたのは、高校に入学して初めて習う課であり、何ごとも最初が肝心だからである。さらに、学びが遅れている生徒、いわゆる Slower Learners をどのように指導するかという問題も古今東西の課題である。本研究では、「すべての生徒は知的好奇心を持っている。Slower Learners も決して例外ではない」という視点のもとに、彼らの指導のために教科書はどうあるべきかを分析・考察することを研究の目的とする。具体的には、以下のように教科書を構成する主要素である言語材料、言語活動、題材内容の3点を取り上げる。

- (1) 言語材料の面から、語彙、文法、文型について、その扱われている質、及び量について分析、考察をすること。
- (2) 言語活動の面から、「読むこと」と「書くこと」に関する設問の置き方や練習問題の出し方を分析、考察すること。
- (3) 題材内容の面から、本課本文におけるテーマの深さに関して分析、考察をすること。

これらの目的を達成するために、本論文の構成を3章立てにした。まず、第1章では目的(1)のために、語彙の質と量に関して、文法については、扱う文法項目の片寄りや違和感に関して、文型については、扱い方の危うさと生徒が誤解しやすい例文とその量に関して取り上げた。次に、第2章では目的(2)のために「読むこと」における設問の比較及び練習問題の出し方について、「書くこと」における練習問題の形式化と分量、質を取り上げた。最後に、第3章では目的(3)のために題材の比較とテーマの扱いについて、その深みの欠如に関する問題点に言及した。

研究の対象とする「英語Ⅰ」の教科書は、2012年度版の「英語Ⅰ」の全教科書36種類から初級レベル9種類、中級レベル3種類とした。初級レベルを取り上げたのは、研究の目的が Slower Learners の指導だからである。中級レベル3種類を加えたのは、初級レベルとの比較のためである。

本研究の結論については、3つの領域から研究したが、次のように集約する。

まず、言語材料である。語彙については質と量について、文法においては片寄りや違和感のこと、文型ではその扱いと、例文の質と量にそれぞれ問題があることである。

次に、言語活動である。「読むこと」の中で、設問と練習問題について、「書くこと」では練習問題、及びその内容と分量に問題があることである。

そして、題材内容である。題材とテーマにバランス上の問題点があることである。

最後に、教科書研究は生徒の学習の理解のために、また、学習意欲の喚起のために極めて重要なことであること、また、Slower Learners の本当の苦しみを知るためには教科書分析に手がかりの1つがあることを改めて確認した。

参考文献

- 和泉伸一 2009 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』
大修館書店.
- 池上嘉彦 1995 『〈英文法〉を考える』 筑摩書房.
- 大津由紀雄 2004 『英文法の疑問』 日本放送出版協会.
- 大友賢二 1985 「英語学力と動機づけ」『現代英語教育』8月号 研究社.
- 斉藤栄二 1992 「困難校の英語教育」『現代英語教育』10月号 研究社.
——— 1998 『英語授業成功への実践』 大修館書店.
——— 1996 『英語授業レベルアップへの基礎』 大修館書店.
——— 2008 『自己表現力をつける英語の授業』 三省堂.
- 澤田昭夫 1984 『外国語の習い方』 講談社.
- 塩川春彦 1992 「学習意欲を高める視点」『現代英語教育』10月号 研究社.
- 諏訪哲二 2007 『なぜ勉強させるのか』 光文社.
- 正慶岩雄 1984 「すべての子どもに基礎学力を」『新英語教育』No. 173 三友社.
- 高塚成信 1981 『学力不振に関わる教師の問題』『英語教育』Vol. 30, No. 6 大修館書店.
- 竹中重雄 1986 「高校・英語 I、II の教科書に望む」『現代英語教育』12月号 研究社.
- 橘 武 1982 『意欲を起こさせる英語指導』 大修館書店.
- 谷口賢太郎 1998 『英語教育改善へのフィロソフィ』 大修館書店.
- 土屋澄男 1986 「検定教科書の課題」『現代英語教育』12月号 研究社.
- 天満美智子 1982 「学ぶ側の論理」『現代英語教育』7月号 研究社.
——— 1985 「こどもはどこでつまづくか」『現代英語教育』8月号 研究社.
- 名和雄次郎 1986 「生徒の学習意欲を高める工夫」『現代英語教育』10月号 研究社.
- 西川 勲 1982 「生徒のつまずきに学ぶ」『現代英語教育』7月号 研究社.
- 二谷廣二 1988 「英語嫌いにどう対応するか」『英語教育』Vol. 37, No. 4 大修館書店.
- 羽鳥博愛 1987 「英語への心理的抵抗をとり除く」『英語教育』Vol. 36, No. 9 大修館書店.
- 拜田 清 2011 「入試問題は今」『新英語教育』9月号 三友社.
- 林 洋和 2001 『英語の語彙指導』 溪水社.
——— 1987 「生徒の個人差に配慮した指導をする」『英語教育』Vol. 36, No. 9 大修館書店.
- 福地守作 198 『学力不振者と英語指導』『英語教育』Vol. 30, No. 6 大修館書店.
- 三浦 孝 1991 「授業の〈荒れ〉にどう対処するか」『現代英語教育』10月号 研究社.
- 望月正道他 2003 『英語語彙の指導マニュアル』 大修館書店.
——— 2010 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店.
- 森住 衛 1978 「英語教育に課せられた人間教育」『英語教育』Vol. 27, No. 1 大修館書店.
——— 1988 「文法のここがわからない」『現代英語教育』7月号 研究社.
——— 1988 「話す場面を作るために」『英語教育』Vol. 37, No. 6 大修館書店.
——— 1990 「どこで生徒はやる気になるか」『現代英語教育』5月号 研究社.
——— 2004 『単語の文化的意味 —friend は「友だち」か』 三省堂.
——— 2011 「A textbook is a textbook is a textbook」*Teaching English Now 2011. 1*
三省堂.
- Bade, M 2008. 'Grammar and Good Language Learners' in Griffiths, C *Lessons from Good Language Learners* Cambridge : Cambridge University Press.